

ビデオ 通信

2022年
8月22日(月)
No.4594

月・木曜日発行
月額：¥11,000(税込：¥11,880)
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

ALEXA Mini と QTAKE を新規導入

CM・ドラマ領域の業務拡大を図る

映像総合プロダクションとしての制作力を全ての部門・部署で強化



(左) QTAKEを導入したDITシステム / (右) ALEXA Mini

パナソニック映像(株)はこのほど、CM・ドラマ制作ワークフローの強化を狙いとして、ARRI社のデジタルシネマカメラ「ALEXA Mini」とIN2CORE社のビデオアシストソフトウェア「QTAKE」を新規導入した。既にCM案件で使用しているほか、今夏には連続ドラマでの使用が決まっているという。同社では、パナソニック関連のプロモーション映像だけでなく、企業映像、イベント映像、テレビCMやドラマ、超高画質映像やVRまで、幅広いジャンルの映像

制作について、企画・撮影・ポストプロダクション・放送・中継・配信・ディスクオーサリングに至る、総合映像プロダクションとしてのトータル&ワンストップサービスを強化している。テクニカルグループでは、今年4月に組織を再編成し、撮影とポストプロダクション、ディスクオーサリングのチームを有機的に融合させるとともに営業窓口を一本化し、多様化する顧客ニーズに対して、最適なワークフローによる映像制作サービスを提供できる体制を整えた。さらに、ALEXAで定評のある高い信頼性/安定性と独自のカラー/トーンを踏襲したコンパクトな筐体の「ALEXA Mini」と、ファイルベース収録のワークフローを飛躍的に向上・効率化させ、撮影時に欠かせないDITプレイバックシステム「QTAKE」の新規導入に加え、様々な映像制作現場において豊富な経験を有するカメラマン/DITを“ワンパッケージ”で提供することにより、CM・ドラマ領域における業務拡大を図る。なお、同社がパナソニック製以外のカメラを購入するのは初めてだという。

技術チームに対するCMやドラマの需要の高まりに対応

今回の ALEXA Mini と QTAKE の新規導入について、テクニカルグループ 技術チーム チームリーダーの中村貴志氏は〈パナソニック映像は、大阪の本社、東京と上海で事業を進めており、技術・制作に関しては東京オフィスを中心に進めています。制作する映像のジャンルはパナソニック商品等のプロモーション映像、企業映像やイベント映像を中心に、プロジェクトマッピング映像、4K/8K といった高画質映像、3D や VR などの特殊映像、テレビ番組や CM などと幅広く、それらの撮影からポストプロダクションに加え、パナソニックの IT/IP プラットフォーム「KAIROS」による中継や配信なども手がけています。当社では今、映像総合プロダクションとしての制作力を強化するため、全ての部門・部署において強化を図っています。テクニカルグループでは、技術チームに対するテレビ CM やドラマの撮影に対する需要が高まっており、CM やドラマ制作ワークフローを強化し、「パナソニック映像は CM やドラマにも注力している」をアピールする意味からも、ALEXA Mini と QTAKE を導入しました〉と説明する。

ALEXA Mini (写真→) については〈CM の黄金期を支えてきた ALEXA シリーズの中でも、当社での運用に最も適していると判断し、ALEXA Mini を選択しました。CM 業界では高い信頼性を得ていると同時に、ドラマでよく使用されている ARRI のカメラ「AMIRA」とも相性がいい。CM とドラマの両面で ALEXA Mini を活用していきたいと考えています〉とする



ALEXA Mini + QTAKE、DIT やカメラマンをパッケージにしたサービスを提供

また、テクニカルグループ 技術チームで幅広いジャンルを手がけるシネマトグラファーの佐藤洋氏は〈ALEXA は狙った映像とトーンを着実に再現してくれるカメラ。CM などで求められるゲインの高さなども十分あります。現場に ALEXA Mini を持って行って落胆させることはありませんから、パナソニック映像が CM やドラマに対して本格的に注力していくためにも、自社で ALEXA を持つ意義は大きいと考えています。ALEXA Mini + QTAKE、現場経験の豊富な DIT やカメラマンをパッケージにしたサービスを提供していきたい〉と語る。

さらに、テクニカルグループ 技術チームでドラマを中心としたシネマトグラファーの貝谷慎一氏は〈筐体がコンパクトだからこそ、様々な用途があると思っています。今後カメラがどんどん進化していく中で、信頼性と使い勝手とコンパクトさ、撮影だけでなくフィニッシングまでのトータルバランスを考えると、現状では一番いい選択だったと考えています。コンパクトな筐体なので、ドラマの撮影でも、狭い日本の家屋の中に入り込んで引きの画が撮れる。これまでデジタル一眼カメラで撮影していたようなアングルにも対応できます。また、カードに直接収録できるのも大きなメリットです。そうした ALEXA Mini の特徴を活かした、様々な撮影に挑戦していきたいと思えます〉としている。

一方、「QTAKE」は、新しい概念のファイルベース収録ワークフローを提供するビデオアシストソフトウェア。撮影時にカメラ収録と同時にインジェストを行い、様々な撮影記録を効率的に整理。撮影終了時にはデジタルも完全に終了し、即座にノンリニア編集へ移行することができる。同時に一連の作業をそれぞれ最大限に効率化し、作品のクオリティアップを積極的にアシストする。

撮影したクリップを即座にプレイバック、リアルタイムでのスピード調節再生、カットのつなぎ目を確認するための編集機能、メタデータの詳細記録、直感的に欲しいクリップを探せるブラウザ、ライブ Mix 合成、カラーコレクション、クリップごとの LUT の適用など、様々な機能で撮影の段階から仕上がりに近いモニタリングを可能とし、完成に近い状態を確認しながらの撮影が行える。

中村氏は〈QTAKE は CM 業界でかなり広まっており、CM 撮影の現場では不可欠なツールになっているとも言えます。“撮影”を考えた作りになっているのが特徴で、カメラ台数の急な変更など、現場で発生する突発的な出来事に対応できるのが大きな強みです。拡大・縮小・回転など、大型スイッチャー並みの機能を持ち、ネットワークを介して映像を飛ばすこともできます。高画質映像制作や中継・配信現場の経験を活かし、DIT として QTAKE の持つ様々な機能を効果的に活用していきたいと考えています〉と話す。



映像業界全体を視野に入れた事業を展開していることを訴求

パナソニック映像 テクニカルグループは「商材開発室」「技術チーム」「営業マネジメントチーム」「ディスクサービスチーム」の 4 部署で構成され、商材開発室を除いて全てが東京オフィスにある。技術チームには撮影とポストプロダクションのメンバーが所属しており、撮影には 3 人のカメラマンと 2 人の DIT、1 人のエンジニアが在籍している。昨年までは撮影チームとスタジオチームが分かれていたが、今年 4 月に組織を再編。撮影とポストプロダクションを有機的に融合させ、窓口を一本化することで、多様な顧客ニーズに対して最適なワークフローの提案とサポートサービスを提供できる体制を整えた。

機材面では、CM やドラマ制作に対する今回の ALEXA Mini と QTAKE 導入のほか、中継・配信系では規模の大小を問わず「KAIROS」の運用を一番良く知っており、クラウドを含めてあらゆるスタイルの案件に対応している。

中村氏は〈まだまだ根強い「パナソニックのハウスプロダクション」というイメージを打破し、映像業界全体を視野に入れた事業を展開していることを訴求していきたい。映像に関するあらゆる業務を手がけている中で、今回、それに対応する機材として強力な“武器”が新たに加わりました〉。佐藤氏は〈ハウスプロダクションとしての業務の一方、需要が増えてきた外部からの業務も拡大していきたい。今回の機材強化の狙いはそこにあると言えます。ALEXA Mini はクレーンやジンバル、モビなどを使った撮影も可能ですし、「ARRI カメラによるマルチ撮影」といった提案も気軽にできるのではないかと考えています〉と話している。



(左から) 中村貴志氏、佐藤 洋氏、貝谷慎一氏

◇パナソニック映像 撮影スタッフ紹介ページ

https://group.connect.panasonic.com/pvi/film/pvi_satsuei_staff.pdf